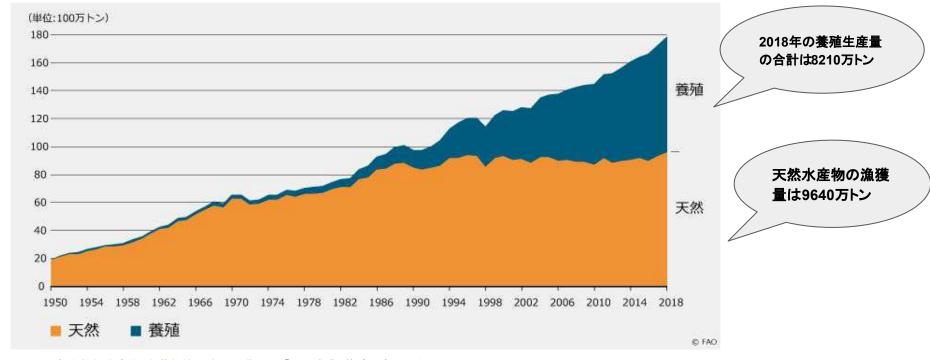


世界水産物連盟ニュースレター 2022年3月



# 問題点の整理



世界の魚介類総生産量(海藻類等は除く)出典:FAO「世界漁業・養殖白書2020年」

世界的な魚の消費は右肩上がりの一方で漁船漁業による生産量は頭打ちで、養殖業の拡大が需要を賄う為に大きな役割をはたしています。しかし養殖により全ての資源の問題が解決するわけではありません。

また、養殖が急速に増加したことにより以下の様な問題が発生しております。

-餌による水質汚染、生餌など他の資源の使用、養殖場建設による自然環境の破壊、養殖魚の脱走により生態系に与える影響、過度な抗生物質の使用、過酷な労働環境など

BAP認証では4つの柱(食品安全、環境への責任、社会への責任、動物の健康と福祉)を設け、養殖のサプライチェーンの各段階に基準を設定する事により、これら全ての問題やその他の問題にも対応しております。

# 問題点の整理~BAP認証での対応~

今回は養殖場建設による自然環境の破壊についてです。例えば、エビ養殖に焦点を当てると1992年に90万トンだった養殖の生産量が2012年には433万トンまで増えております。マングローブ林が減少した要因は1つではなく場所によっても様々ですが、工ビ養殖池への転換、製炭材のための伐採、農用地への転換が主に挙げられます。アジア全体のマングローブ林の面積は1990年の633.1万haから2010年には592.8万haまで、世界では1575.9万ha(1990年)から1492.8万ha(2010年)まで変化しております。その後減少のペース自体は鈍化している様ですが、責任ある管理や対策が必要であることに変わりはありません。

Region/subregion

**Total North and Central America** 

**Total Oceania** 

**Total South America** 



1990年から2020年の地域別のマングローブ面積の年次変化

TABLE 31. Area of mangroves and annual change, by region and subregion, 1990-2020

	1990	2000	2010	2020	1990-2000	2000-2010	2010-2020	
Eastern and Southern Africa	929	902	883	905	-2.7	-1.9	2.2	
Northern Africa	34	31	32	31	-0.3	0.1	-0.1	
Western and Central Africa	2 436	2 400	2 349	2 304	-3.6	-5.1	-4.5	
Total Africa	3 398	3 332	3 2 6 4	3 240	-6.6	-6.9	-2.3	
East Asia	24	22	25	32	-0.2	0.3	0.7	
South and Southeast Asia	6 117	6 108	5 713	5 330	-0.8	-39.6	-38.3	
Western and Central Asia	190	190	190	184	0.0	0.0	-0.7	1
Total Asia	6 331	6 3 2 0	5 928	5 545	-1.0	-39.3	-38.2	
Total Europe	0	0	0	0	0	0	0	1
Caribbean	787	789	774	891	0.2	-1.6	11.7	
Central America	492	482	483	466	-1.0	0.1	-1.8	
North America	1 152	1 167	1 190	1 195	1.5	2.3	0.5	

2 447

1314

1976

14928

2 552

1 255

2 124

14 717

-29.6

-10.2

-46.7

https://www.mangrovealliance.org/news/30-years-of-global-forest-data/を参照

2 439

1 150

2 050

15 292

2 431

1 447

2 152

15 759

https://www.jfa.maff.go.jp/j/kikaku/wpaper/h25/attach/pdf/25suisan1-1-1.pdfを参照

#### BAP認証ではマングローブ林に限らず・・・

-BAP認証の養殖場基準では養殖場を建設する際はマングローブ林、湿地、その他重要または脆弱な生息地には建設しないこと。 建設によって絶滅危惧種、またその重要な生息地が失われないこと。とされております。

(養殖場基準3.12, 3.13)

-1999年以降に施設の敷地で湿地の生息環境の喪失が復元を上回った場合、その喪失は、 3<u>倍の広さを持つ湿地の復元か、再生プロジェクトへの相当金額の寄付金の支払いにより軽減されているものとする。 (養殖場基準の</u>3.15)

その他廃水、堆積物管理、土壌および水の保全、生物多様性および野生生物の保護、用具と廃棄物の保管や処分なども含まれております。

Annual change (1 000 ha/yr)

16.4

-7.4

-5.9

14.8

-21.2

### 国分グループ本社株式会社様@デリカテッセン・トレードショー2022

2月16~18日の3日間「デリカテッセン・トレードショー 2022」が幕張メッセにて開催されました。 BAP認証のエンドーサーである国分グループ本社株式会社様が出展、BAP認証原料を使用したパンガシウスの香草パン粉焼き、海老と彩り野菜のチリソース、海老カツサンド、スモークサーモンのサラダ、小海老のフライ等の展示を頂きました。





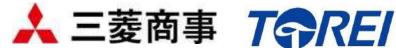


# 国内BAPエンドーサー企業一覧





























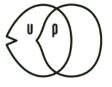






















## BSP認証取得事例~ホッコクアカエビトロール船~

カナダ東部の海岸線に沿った北大西洋、バレンツ海東部、そしてスヴァールバル諸島にてホッコクアカエビを漁獲する0m級のエストニア船籍の漁船「Merike」が責任ある漁船(RFVS)基準を満たしたと発表されました。 漁船は2002年に建造されレイキャビク(アイスランド)に拠点を置くIECグループの中のReyktal AS社の所有です。

IECグループの品質責任者であるAnita Ásmundsdóttir氏は次のように述べています。

「漁船に搭載されている安全衛生システムをより標準化するRFVSのサポートに満足しています。また、システムの有効性と 我々チームの優れた作業が認められたことを嬉しく思いますRFVSは、私たちが目指している高い基準をお客様やパートナー に示す事を可能にし、継続的な改善を続けるのに役立ちます。

プロジェクトは<u>Labeyrie Fine Foods Group</u>の一員でありエビ、貝類、その他水産物の英国有数のサプライヤーである <u>Lyons Seafoods Ltd.</u>, によってサポートされました。

Labeyrie Fine Foods UK(Lyons Seafoodsを所有する)のサステナビリティ部代表のEstelle Brennan氏 「私たちは漁師の安全と福祉に取り組んでいます。RFVS基準を満たすことで、弊社、お客様、および消費者に、パートナーEC グループが高水準の作業条件と運用慣行に従って運用されていることが保証されます。間違いなく素晴らしい成果です。

2022年3月時点で、32施設が天然水産物に対応する加工工場基準(SPS)を取得。 29隻が責任ある漁船基準(RFVS)を取得しております。 取得した生産者の情報はBSPウェブサイトから確認頂けます。

BSP認証(RFVSを含む)についてのウェビナーが以下の日程で開催されます。 2022年3月22日(火)午後11時~(日本時間)

スピーカー: Arni M. Mathiesen氏(FAOの元副長官兼水産・養殖局長) こちらから無料登録。言語は英語です。





# 責任ある漁船基準(RFVS基準)のパブリックコメント

責任ある漁船基準2.0版は60日間(4月22日まで)のパブリックコメントの期間を設けております。 これは、GSAが英国のSeafishから基準の所有権を取得して責任ある漁船基準の1.0版を正式に公開した2020年6月以 来の大きな変更です。この基準の変更は2022年1月19日にRFVS技術委員会によって合意されました。 以下は主な追加点です。

- -漁船の品質管理システム内で乗組員の修復ポリシーを要求します。これは、新しいGSAのRFVSゼロトレランスポリシー (ZTP)に違反した場合にアクティブになります。このZTPは、漁船監査中に特定された非常に深刻な人権侵害のみを対象としています。
- 責任ある漁船基準の漁船カテゴリーの範囲を拡張して、グループ内で運航する入札船や補給船も含める。
- -新しいSustainable Supply Chain Initiative(SSCI)のAt Sea Operationベンチマークとの完全一致。
- -特に乗組員の支払いに関して、recruitment agencyとrecruitment supplier/providerの違いを定義する。
- -漁船に乗船している若い家族に関する条項とそれらを保護する為に、実施されている措置をさらに明確にする。

責任ある漁船基準の1.0の元で認証を取得している漁船は、認証取得日から3年間後に期限が切れるまではこれらの新しい要求の対象とはならない。

コメント提出をご希望のステークホルダーの皆様はこちら

責任ある漁船基準2.0版のドラフトはこちら

正式に頂いた全てのコメントはRFVS2.0版の正式な発表の前に、GSAによって検討されます。

#### BSP認証について

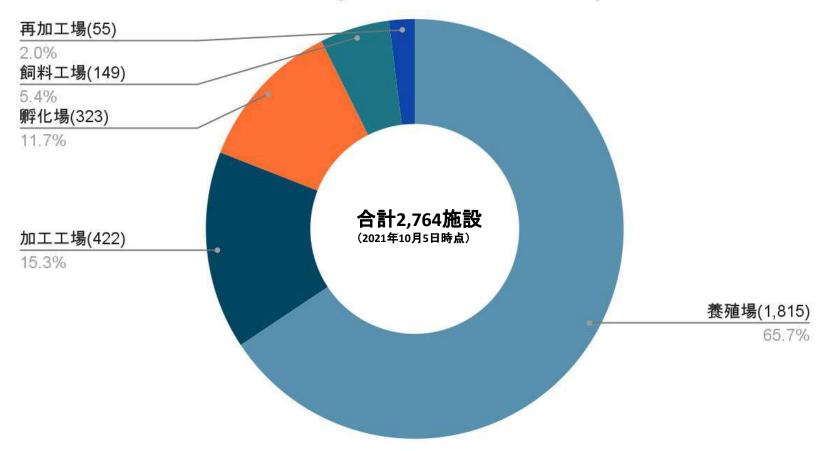
BSP認証は責任ある漁業を認証された漁船や加工工場にリンクできる世界で唯一の第三者認証プログラムです。 サプライチェーン全体の全ての労働者の幸福と安全を尊重し、天然の水産物が倫理的な方法で漁獲および加工されている事を市場に保証します。詳しくは<u>https://www.bspcertification.org/</u>へ



# 世界での認証施設数

現在システム改訂中のため、こちらのページは先月と同じものです。

### 世界でのBAP認証施設数(2021年10月5日時点)



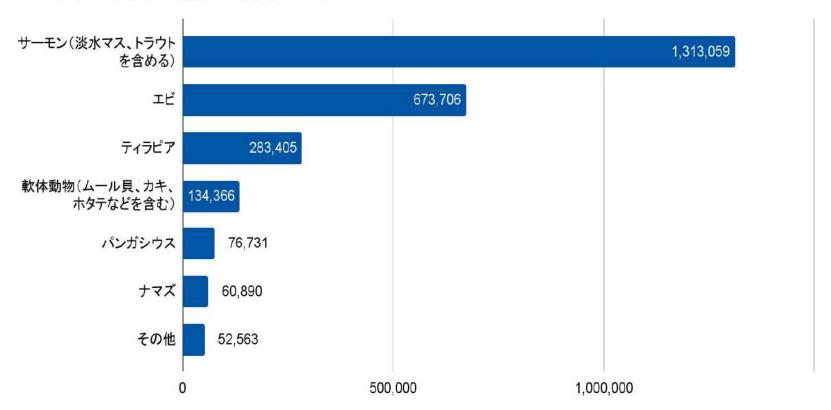
2021年10月5日時点のBAP認証施設数は2,764軒です。 ※こちらの数字は各施設の直近の監査結果より集約されております。



## 魚種別の認証生産量1

現在システム改訂中のため、こちらのページは先月と同じものです。

#### 2021年10月5日時点 (単位:トン)



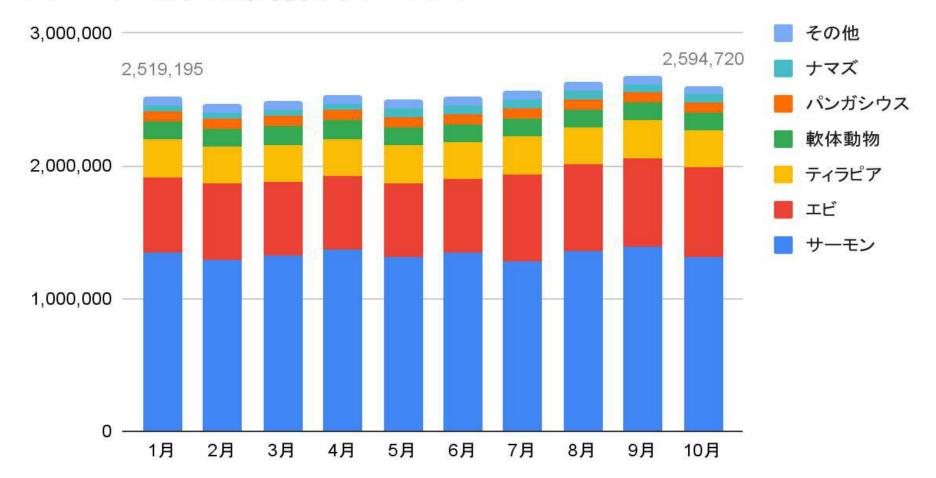
2021年10月5日時点、BAP認証水産物の世界合計は **2,594,720トン**です。 ※こちらはBAP認証を取得している全養殖場の直近の監査結果からの数字です。 基本的には2020年1月~2020年の12月まで(カレンダー年)の生産量になります。



# 魚種別の認証生産量2(年間の推移)

現在システム改訂中のため、こちらのページは先月と同じものです。

### 2021年10月5日更新(単位:トン)





## BAP認証フェアの企画大募集中です!

BAP認証を運営するGSAではマーケティングサポートも積極的に行っております。 共同でのイベントをご希望の方は日本マーケット担当芝井までご連絡下さいませ。 それぞれのイベントのご要望に合わせて打ち合わせをさせて頂き、必要に応じてポスター、ポップ、 その他ビデオ、ステッカー等々を<u>無料にてデザイン、納品</u>致します。 ※必要枚数の印刷に関しては各企業様でご負担を頂けます様お願い致します。















## マーケットとして導入しやすいBAP認証

ふ化場、飼料工場、養殖場、加工工場はBAP認証の対象になり、年に一度の監査が必要になります。 商品の加工が発生しないサプライヤー、小売、社員食堂やレストランなどのフードサービスはエンドーサー合意書の締結のみ で、無料でBAPロゴの使用やリリース、レポート等での発信が可能になります。

**特例1**: 個別包装された商品を開封、再梱包またはラベルの張り替えをせず、商品の梱包やラベルをそのままの状態でピッキング流通する場合について。その施設は加工工場認証の取得対象外になり、エンドーサー合意書の締結のみ必要となり BAPロゴ付き商品として、そのまま販売して頂けます。

**特例2**: 最終消費現場での商品の加工、調理、再包装、またラベル張り替えをする場合は加工工場認証の対象外となり、エンドーサー合意書の締結のみでロゴを使用いただけます。(スーパーのバックヤード加工、飲食店・レストラン・ホテルの調理場加工など。)

また、複数の水産物を使用した製品に関して、使用された一部の水産物がBAP認証であればロゴマークを使用することができます。可能な限りどの水産物がBAP認証なのかを明記してください。 詳しくはこちらよりBAP認証ロゴガイドラインをご参照ください。

BAP認証水産物を販売促進または購買支援する

ふ化場、飼料工場、養殖場、加工工場はBAP認証の対象となります。

企業はエンドーサー契約の対象となります。

企業はエンドーサー契約の対象となります。

が表れている

が表れている

が表れている

が表れている

が表れている

が表れている

でのロフードサービス

をのロフードサービス

BAP

Strington Application org



## BAP認証の日本語版の各種資料について

BAP認証に関する日本語の三つ折りパンフレットや、各種資料を以下のリンク先より無料ダウンロードすることができます。是非ご活用下さいませ。

https://info.globalseafood.org/ja-jp/bap



GSAとBAP認証のご案内



BAP認証ロゴマーク使用ガイドライン



<u>養殖漁業ファクトシート</u>



2020年次レポート



## BAP認証の日本語ロゴについて

BAP認証の日本語版ロゴを用意しております。 利用をご希望の方は芝井までお問い合わせください。 kota.shibai@globalseafood.org



魚と人の 未来のために



責任ある 養殖水産物の 国際基準



国際基準を満たした環境で 養殖されています



海と魚を守る安心の BAPマーク



きれいな海で獲れた健康な 魚介類の証



ニュースレターに関するお問い合わせは以下までお願い致します。 ※二次利用をご希望の方はお問い合わせ下さいませ。

世界水産物連盟 日本マーケット担当 芝井 幸太

メールアドレス: kota.shibai@globalseafood.org

電話番号: 080-2167-0086

BAP認証ウェブサイト https://japan.bapcertification.org/

※配信停止をご希望の方は、こちらまで「配信停止」とご連絡くださいませ。

